

特別講演 1

「高齢者心不全を診る ～再入院予防と漢方薬の役割～」

国立循環器病研究センター

血管内科部門 心不全科 医長

北井 豪 先生

近年、わが国における心不全患者は急速に増加しており、「心不全パンデミック」などと表現されており、特に高齢心不全患者の増加が問題となっている。『急性・慢性心不全ガイドライン』（日本循環器学会）には、急性心不全発症後の治療目標に「再入院予防」が示されており、慢性心不全の急性増悪（急性心不全）の反復抑制の重要性が示されている。心不全は急性期治療だけでは遷延化の抑制に限界があり、入院中から退院後を見据えた治療が必要である。高齢者心不全増加の問題点として、併存疾患が多い、介護保険によるサービスが不十分、行政の疾患予防プログラムが不十分、などが挙げられる。現在、高齢者の健康寿命を延伸し、平均寿命との差（約 10 年）をいかに小さくするのが、行政においても課題となっている。心不全重症化のパターン（心不全の病みの軌跡）は、「高齢者の病みの軌跡」とほぼ同じであり、心不全診療は高齢者医療そのものといえる。高齢者心不全の重症化防止の一助として、漢方の役割が期待される。